

「野洲市行財政改革推進プラン」の進捗状況報告について

1. 行財政改革推進プランの概要

令和4年3月に策定した行財政改革推進プランは、近い将来に財政調整基金が枯渇するという危機的な財政状況から脱することを目的として、8年度までの5年間で実施する取組と効果見込額をとりまとめて策定しています。

この度、令和7年度末時点における重点的取組事項の進捗状況をとりまとめましたので報告します。

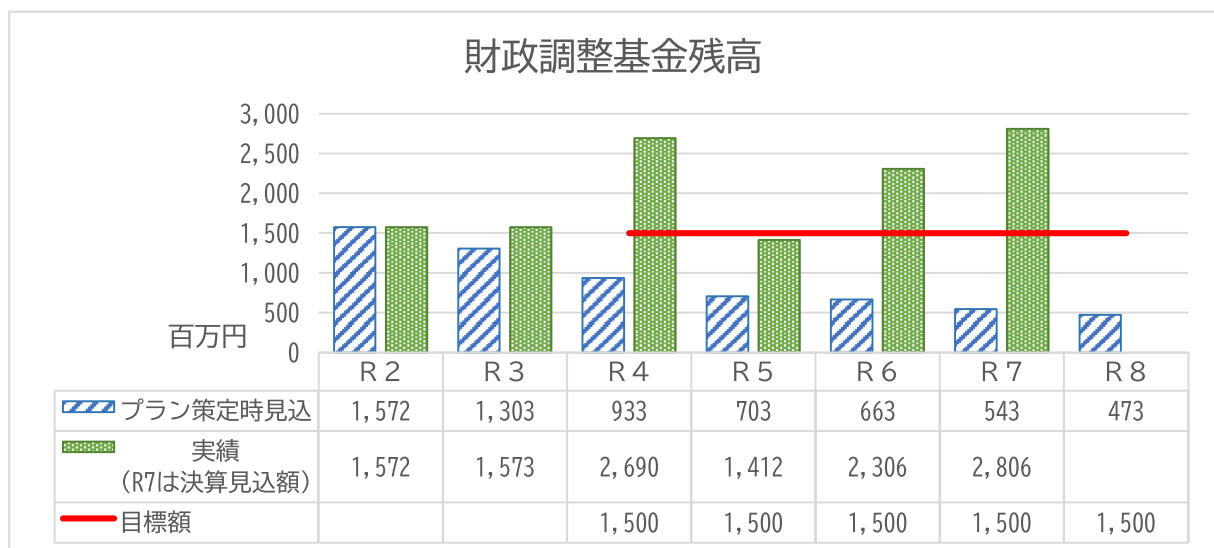
2. 令和7年度の取組概要と成果(効果額)

主な取組の概要は別表のとおり取りまとめています。

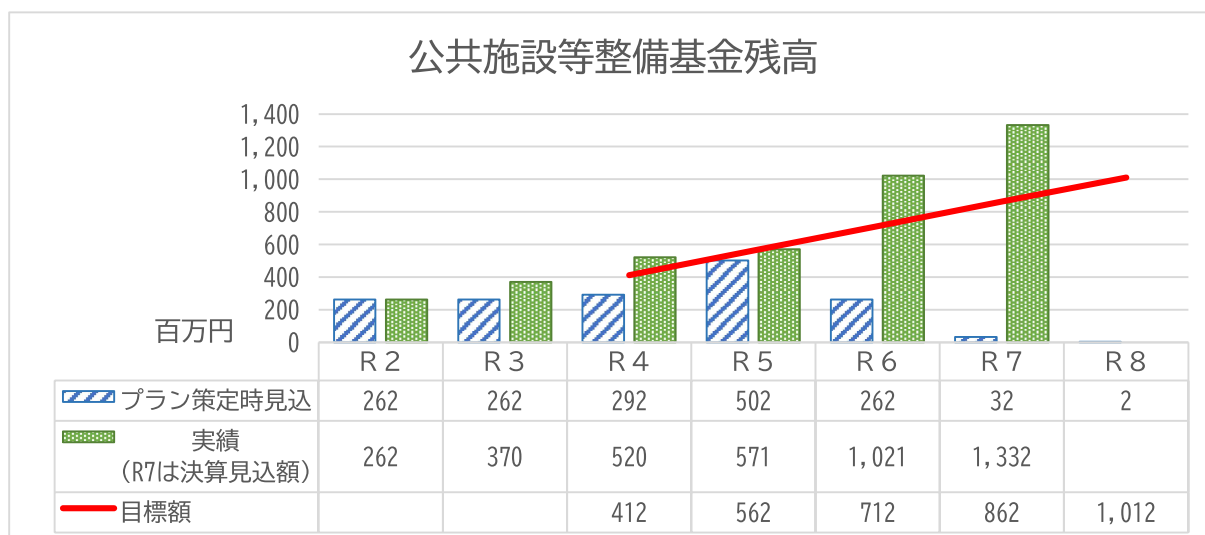
なお、取組項目として列記したものの、実際に進めていくことが難しい項目については、今年度の進捗報告より他の項目に置き換えを行いました。また、DXを中心に、新たに取組を始めたものについては追加記載しています。

各取組による効果額の合計は、プラン策定時に見込んでいた目標額を上回っており、概ね順調に進捗しているものと評価できます。

また、プランでは、基金を取り崩さない財政運営を実現するため、財政調整基金の残高が15億円を下回らないこと、公共施設の老朽化対策に要する費用を捻出していくため、公共施設等整備基金を令和8年度末までに10億円積み立てることの2つを目標としていますが、令和7年度末決算見込み時点においては、どちらも達成できる見込みとなっています。



※令和7年度基金残高は2月補正時点の金額です。(公共施設等整備基金も同様)



3. 審議会での意見

学識経験者等の外部委員で構成し、行財政改革の取組みについて審議いただいている「野洲市都市経営審議会」において、当該プランの進捗状況を報告し、次のような意見をいただきました。

- ▶ 文化施設の集約によって、市民の文化活動が充足されない状況にある。活動を維持していくための支援や、コミセン等で代替する仕組みも考えてはどうか。また、これをきっかけとして、地域での小規模なイベントにも市民が来てもらえるよう周知してはどうか。
- ▶ 新たな発想で挑戦する政策提案型事業は評価できるが、継続的に実施すべきものは3年限定ではなく、定常的な事業に変えていく工夫もあると良い。
- ▶ ふるさと納税は、特定の人気物品で脚光を浴びているうちに、野洲の風土に合った応援したくなるものを作り上げていかないと、外部要因による歳入減少のリスクを背負い続けることになる。
- ▶ 新たに高専ができるが、既にある希望が丘や兵主大社、御上神社といった地域の資源も上手く活用し、これらを実際立たせたまちづくりができないか。
- ▶ 審議会の意見や全体の進捗状況を各所属へフィードバックし、議論を促すことで、改善効果が高まるのではないか。

5. 令和8年度の取組み

現時点ではプランで定めた基金残高の目標を達成できる見込みですが、上記の結果や意見を踏まえ、令和8年度においても引続き、目標の達成に向けた取組みを各所属と進めていきたいと考えています。

また、現行プランが令和8年度で終了となることから、その後の新たなプランの策定についても検討を進めていきます。